

第9回テーマ

「曇りのち晴れ」の経営

道で歩く人達の表情が暗い...最近そんな印象を持った事はないだろうか？また下を向いて歩く人の光景を見ていると特にその「暗さ」を感じてしまう。未曾有の経済不況の中、必死にもがいて仕事をしている姿勢も感じ取れるのだが、残念ながら悲壮感の方が前面に出ているように思う。厳しさと同時に苦悩に溢れた状況下の現状を再認識した。

お世話になっているクライアント先の専務にその話をすると、こんな答えが返ってきた。「御霊を磨く...御霊は”みたまま”という意味だよ。それを磨くというのは、曇りを取り除く事だ。世の中も経営も同じだよ」と。つまり、自分が曇り過ぎると、その対象である自分を認めたり、許したりできなくなる、という意味であった。だから、表情や言葉も明るく振る舞い”曇り”を意識的に取り除く努力が必要という事なのだろう。その話を聞いた後で考えたのだが、経営も同じで、曇り過ぎると会社を過大評価したり、異常に過小評価したり、冷静で客観的な評価ができなくなる事もあるな、と納得した。

景気が浮揚するには多くの経済政策や規制緩和などの抜本策の他、経営努力が必要だ。しかも短期で抜本的に変わるものではない。それは歴史が証明していると思う。しかし、個人でも企業でも「御霊を磨く」事はできるはず。意識的に「みたまま=現状分析」を客観的に行い、認めて許す、それから次なる課題へとチャレンジしていく事で曇りから「晴れ」へとつながっていくのではなからうか。

最後に、もう一つ「宝は”他から”」という言葉も頂いた。つまり、個々の力は弱い、他から得られるものは何モノにも変えられない「本当の宝」という意味だ。自力で「曇り」を晴らす事は難しい。自らモチベーションを高め、それを長期間継続させる事というのは至難の業だからだ。だから今こそ、他との関わりやコミュニケーション、協力関係などがこの時代は非常に必要なのではないか？と思う。

改めて自分の立ち位置などを深く考え、自分にとって会社にとっての「宝 = 他から」は一体何だろうか？と思い返すきっかけとなった。ぜひ、一度、会社の本当の宝は何か？について議論してみるのはいかがだろうか。